

1. 取り組み・アイデアのテーマ・タイトル

「エコストーブ※」を生かした楽しいまちづくり

※エコストーブは、簡単な構造ながら、燃料を完全燃焼させることにより効率よく熱を得ることができるストーブである。アメリカではロケットストーブともいわれる。

2. 取り組み・アイデアの内容

「里山資本主義」（藻谷浩介・NHK 広島取材班共著）に紹介されたエコストーブは、阪神淡路大震災の際にNPOにより使われた炊き出しの際に使われた。このストーブは、ロケットストーブの改良型で、効率よく燃料を燃焼させて熱を得ることができる。このストーブで炊いたご飯はとても美味しい。また、様々な料理を調理することもできて、家族や友人との楽しい時間を持つことも可能になる。日常からこのストーブを使いこなし、燃料等を準備しておけば、災害などの非常時に、暖房、給湯、供食などに使うことができ、日常の生活を継続することが可能になる。

3. 取り組み・アイデアの内容のアピールポイント

市民にエコストーブを普及させて日常から利用して屋外でのバーベキューをはじめとする料理に使って楽しい時間を過ごしていると、災害発生に伴う停電をはじめとするエネルギーが遮断される事態においても、暖房や給湯、炊飯、調理などに困ることなく生活を続けることができる。燃料は、山で採れる雑木が良いので、桐生の里山を復活させてそこから薪や粗朶などの燃料を確保する仕組みを作れば、獣害の撲滅もかねて自然エネルギーの活用にも貢献できるまさに一石二鳥の機材である。

4. あなたにとってのゆっくリズムとは

桐生市では、ゆっくリズムについて「スローモビリティとスローライフのまち」との解釈をしているが、その目指すところは当会の名称でもある「セキュリティとバックアップ機能を備えた街づくり」にあると考えている。エコストーブは、ストーブ煙突やペール缶などの廃棄物を利用して作ることもでき、災害や社会状況の変化に伴うエネルギー危機などの際にも生活に必要な熱源として使うことが可能で、当会が提唱するバックアップ機能を果たせる優れた機材であると考えている。また、エネルギーの地産地消を通じ里山の回復などにも貢献出来、桐生の素晴らしい生活環境の維持にも役立つと考えている。

エコストーブ写真

